令和5年9月25日

学校関係者評価報告書

学校法人　福田学園
大阪工業技術専門学校
自己点検・評価委員会
学校関係者評価委員会

学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校（自己点検・評価委員会）が実施した令和4年度自己点検・評価表に基づき、下記日時に開催した『学校関係者評価委員会』に於いて以下の意見と評価がありました事を報告致します。
今後は、当該評価委員から頂きました意見等を真摯に受け止め、より良い学校運営と教育に努めて参ります。

●開催日時：令和5年8月23日（金）　14：00 ～ 16：00

●場　　所　：福田学園 1号館（大会議室）

●学校関係者評価委員　出席者

【評価委員】	所　属	役職等
松 山　義 広	奈良県立奈良南高等学校	副 校 長
延 安　浩 二	株式会社金山工務店	取 締 役
河 野　正 道	住友精密工業株式会社	総務人事部人事ｸﾞﾙｰﾌﾟ　ｱｼｽﾀﾝﾄﾏﾈｼﾞｬｰ
村 野　智 子	卒業生（平成5年卒）	校友会長
【事 務 局】	所　属	役職等
伊 東　和 幸	大阪工業技術専門学校	副 校 長
宗 林　　功	大阪工業技術専門学校	教務課長（兼、Ⅰ部建築学科長）
吉 田　裕 彦	大阪工業技術専門学校	企画開発局長（兼、建築設計学科長）
堀 部　達 夫	大阪工業技術専門学校	ロボット・機械学科長
吉 松　秀 典	大阪工業技術専門学校	広報担当課長
善 才　雅 夫	大阪工業技術専門学校	進路支援室長
辻 本　　功	大阪工業技術専門学校	事務課長
宗 田　宜 士	大阪工業技術専門学校	事務課主任

◆評価委員の意見と評価

A：十分に満足できる（3点）　B：満足できる（2点）　C：やや不十分である（1点）　D：不十分である（0点）

項　目	評価委員の主な意見等	総合評価（平均値）
【基準1】 教育理念・目的・育成人材像	電子黒板を全数配置し、コンテンツづくり・活用を図り、教育DX・教育の質の向上に繋げており 板書の時間を説明の時間に使える等の利点を有効的に実施していることは良い評価ができる。 理念に基づいた学校のあり方・将来像を、中長期的な視野をもってしっかりと見据え、それに 向かって様々なことを実践されている状況が理解できた。 少子化により学生数の確保が難しくなるが、しっかりとした中期計画を策定し安定した学生数の 確保に取り組んで頂きたい。 学校の将来構想、中期的構想について5ヵ年計画を策定し、将来的な目標に向けての明確な 取組みをされている。 コロナの影響、少子化、修学支援新制度、社会状況等様々な要因が発生しているが、定め られた教育理念をもとに、他校とは異なる独自の特色を出そうと計画されており評価できる。	3.0
【基準2】	授業アンケートをオンラインで実施し、データの集約・共有をスムーズに行うなど、業務効率化 を図る情報システム化がなされている。また、定期考査もオンライン実施を可能にし、幅広い 教育活動を展開していることは良い評価ができる。 教育理念や校是に基づいて、計画的・組織的に運営されていることが伺える。また、学校運営 方針が上層部のみならず、教職員まですべての層に伝え、皆が理解して活動していることは	2.8

学校運営	素晴らしいことだと思われる。 DX化は世の中の流れでもあるので、業務効率化とあわせて情報システム化を進めて頂きたい。 業務効率化を図る情報システム化について、全体的にICT化が進められており、業務の効率化も 進んでいると思われ評価できる。新たなシステムの導入にあたっては慣れるまでには多少時間 が掛かると思われるが、より良い効率化に向けて推進していくことに期待が持てる。	2.8
【基準3】 教育活動	学生の授業理解・能動的学習を促す「授業支援システム」が有効に機能しており、また複数教員 が受け持つ科目において、教授力の差異を少なくするために、googleドライブを活用し、 授業評価結果やふり返りレポートデータを共有していることは良い評価ができる。 学生による授業評価アンケートの実施については、そういう形で学生の生の声を聞くことにより 教育現場での問題点や学生のニーズ・考え方がある程度把握でき、そこから教育方針を検討 するのに最良の方策だと思われる。 教員の確保は質の高い授業を実施するためには非常に重要である。 教員の教授力を把握し 評価することは、教員の質向上につながる思われるので、適切な評価体制を作って頂きたい。 電子黒板の全導入が行われ、授業方法が大きく変わったと感じ、授業の活発化や授業の 効率化の期待が持て、評価できる。 生涯教育については、少子化による新入生の減少、国による生涯学習推進等の社会状況より 学校の好立地条件、多種多様な卒業生の存在を活かし、短期的な講習や街歩きなどのフィー ルドワーク等、気軽に学べる特色ある学び舎ができないかと考えており、提案したい。	2.8
【基準4】 教育成果	学生の進路に関する考え方が多様化している状況に対応し、キャリアデザイン授業や個別 面談の内容更新を行っており、また資格取得の必要性を多様な立場の教員から解説を 行っていることは良い評価ができる。 教育成果はいろいろな形で充分出ていると感じる。また卒業生を中心とした人達の一級建築士 一級施工管理技士の資格取得支援事業にも、教育成果の深堀として力を入れて頂きたい。 就職内定率は目標を達成されており、継続いただきたい。また、資格取得については就職後に 役立つかどうかわからないが、どのような資格でもチャレンジして頂きたい。 就職・資格取得に関する目標、退学率については、面談を重視し、学生の考えや状況の把握 に良く努められ就職内定率に表れており評価できる。また、資格取得については、多数存在 する有資格者の卒業生の活用を提案する。	2.8
【基準5】 学生支援	学校独自の学習支援制度「ドリームサポートプラン」を整えていることは良い事である。 学生の就職に対しては、多様化する学生の性格や資質をも考慮して手厚く指導・支援を行って いるように感じる。他の専門学校あるいは大学の進路指導と比較しても貴校の方が指導・支援 について優位にあると思われる。 志を高く持って専門学校へ入学しても、金銭面で就学を継続することができなくなれば、 学生は質の高い教育を受講することができないので、引き続き学生の経済的側面を支援する 体制を有効に機能させて頂きたい。 学生の経済的側面に対する支援の整備、機能については、国の修学支援制度の認定を受け 独自のサポートプランもあり支援制度は整っていると思われる。 学生の15%が支援制度を利用していることから、機能していると考えられ評価できる。	3.0
【基準6】 教育環境	施設・設備の整備は、福田学園事業計画・中期計画（5ヵ年計画）に基づき、確実に実施している ようなので評価できる。 教育の質向上に必要な機器・設備の導入・整備に積極的に対応されている。しかしながら一方で 世界の環境異変による災害や、大型地震の発生に備えてのBCP対策については若干手薄の ように感じる。 電子黒板を設置するなど、施設・設備の整備が進められているので、引き続き中期計画に基づき 教育環境を整備して頂きたい。 ICT化を活用した教育環境を計画に基づき推進され、電子黒板の全面導入となり整備が進んで おり評価できる。今後は、有効的に活用し、前進的な教育を進める学校としてアピールにも	2.8

	有効的に利用できると思われる。	
【基準7】 学生の募集と受け入れ	入学希望者の立場に立ったオープンキャンパス・学校説明会・個別相談を実施することで その結果、教育内容をより理解してもらえることに繋がり、入学後のミスマッチや不安をを無くす 努力をされていることに感心した。 これまでの就職実績や卒業生の活躍など、アピールできる要素は充分に保有し、学生だけで なく家族への学校理解を重視しての募集体制はしっかりと構築されていると思われる。 今後の対応として、18歳学生数の減少する中での大学との競合は、将来的には一定数の 学生確保は一層厳しくなってくることから、貴校の特色をより生かした活動が必要だと感じる。 大学全入時代を迎え、学生の獲得に苦慮されていると思うが、入試判定の基準は落とさず 質の高い学生を獲得頂きたい。 遵守事項に沿った学生募集活動を行われ、リアルに学校を体験してもらえる努力も行われて おり評価できる。WEB配信やネットにより遠隔地からの反響があるのであれば、力を入れても 良いのではないか。 入試選考では人物本位の選定が行われており大いに評価できる。	3.0
【基準8】 財務	長期借り入れはなく、財務は健全で安定しており、また3ヶ月に1度の会計監査も実施し、 適切な財務管理を行っていることは、中長期的に財務基盤は安定していると思われる。 財務は安定している状況で問題ないと思われる。しかしながら、貴校が持続的発展するため には今の状況に止まらず、教育の質を高めるための投資に見られるような、これまで積上げて きた資産の効率的且つ有効な活用方法を今後も考えて行く必要があると思われる。 長期の負債もないようなので、引き続き安定的な財務運営を行って頂きたい。 借入金や長期負債がない事は高く評価でき、また学生納付金以外の資産運用もなされており 安定的に財務運営がなされており評価できる。	3.0
【基準9】 法令等の遵守	定期的・日常的に研修・ガイダンスを行い、法令・規則の遵守、個人情報保護の意識を高めて おり、職員研修の充実を図っておられることは評価できる。 法令順守の態勢は充分に講じられていると思われるが、教職員や学生に対する啓発活動は 不十分であるところが気掛かりである。 点検中項目総括では、教職員や学生等に対する法令や専修学校設置基準等の遵守の啓発 活動が十分ではないようなので引き続き検討頂きたい。 各種関係法令が遵守され、設置認可に関する審査基準に適合し認可されていることから 適正に運営されており評価できる。	2.3
【基準10】 社会貢献	学校資源を活用しての生涯学習支援や雇用促進、学校施設設備を開放しての地域社会との 連携を計画して、社会貢献を図っておられることは良い事なので、これからも継続してください。 取巻く環境や、教職員・学生の置かれている状況により、なかなか目の行き届かない事柄で あるが、貴校の目的や方針の中で社会貢献に繋がることを見つけてコツコツと実施して行けば 成果にも繋がるのではないかと想像する。 「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」への転換に伴い、各種団体と対面で接する機会が戻って くると思うが、引き続きしっかりと連携・交流を図って頂きたい。 毎年のように行政機関や民間企業や施設などと共同、また連携して事業や交流を図っており、 大変良い状況と言える。好立地条件を活かして、もっと積極的に教室の空き時間を有効に活用 できるようにならないか。ひいては学校の認知度も高められると考えらる。	2.5
【基準11】 国際交流	外国人留学生の経済的・心理的サポート体制を整え、個別の支援計画にも対応していることは 大変なことだと思うが引き続き努めてください。 外国人留学生の受け入れは今後もさらに増加傾向にあり、学校も積極的に受け入れる必要性 が大きく予測されるので、十分な準備のもと進めてください。 日本人学生と同様に外国人留学生についても、精神疾患を抱えている生徒がいるとなど専属 担当職員の負担は大きいと思うので学校全体でサポート頂きたい。 留学生の受け入れや学校の体制に大きなトラブルなく、適正に行われており評価できる。	2.0

	WEBを利用して留学生から留学生の母国との繋がりが持てるような国際交流ができないか。 また、留学生と日本の在校生が交流が持てる機会を多く持てないか。（校内での国際交流）	

※尚、上記の意見と評価は、委員会当日（8/23）に出席されました評価委員の皆様方から、後日、別途改めて頂戴しました評価表を集約し、纏めて記載しております。